【練習】リリカルでStrikerSな世界へ

alan

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
【練習】リリカルでＳｔｒｉｋｅｒＳな世界へ

【Ｎコード】
Ｎ８７８６Ｗ

【作者名】
ａｌａｎ

【あらすじ】
ある日赤いクリスタルによって、リリカルなのはの世界に飛ばされた主人公はどうなるのか。
練習用なので不定期かつ、打ち切りの可能性大です

タイトルかえました

さよなら日常

トドメだ！

「俺のターン！１０００ライフ払い、裁きの龍の効果を発動！さらにダイレクトアタック！」

「クリボー効果発動で」

ッ！？・・・・・・ナンテコッタイ

「エンド時カードをデッキから四枚墓地へ・・・デッキ切れだよ・・・ｏｒｚ」

しかし、まさかのクリボーか～
終焉じゃあるまいし、手札まではどうにも成らないなぁ。
まぁ、要研究ってことで

ん？
なんだ、この赤いの？
クリスタル？

ピカッ！！

ッ！？
眩しッ！

収まった？
って、ここどころだよ。なんで森んなかだよ。
町ん中から森ん中ってどんだけだよ・・・・

まぁ、荷物は無くなってないから良かったけど

にしたってドコだよ！

とりあえず人をさが

「時空管理局です。そこの人、止まって下さい」

ん？

イマナント？

管理局？

「なにィィィィィィィィ！！！？？」

こんにちは異世界（前書き）

なんというグダグダ

こんにちは異世界

フェイトＳＩＤＥ

「次元震？」

「そや、クラナガン近郊の自然公園内で、小規模な次元震が観測されたんよ。で、その調査に行ってもらいたいんや」

でもそこは陸士部隊の管轄なんじゃ…

「陸は万年人手不足で手ぇまわらへんから、新設されたばかりのウチらんとこに来たんや」

なるほど、それで

「うん、わかったよはやて」

「ほな、フェイトちゃんたのむな」

「時空管理局です。そこの人、止まって下さい」

「なにィィィィィィ！！！？？」

そんなに驚くことかな？
とりあえず話をしてついて来てもらわないと
「時空管理局執務官のフェイト・Ｔ・ハラオウンです。ここで何があったのか、お聞かせ願えますか？」

主人公ＳＩＤＥ

「ここで何があったのか、お聞かせ願えますか？」

おいおいマジかよ、管理局って
なに？まさかのリリカル的な世界ですか！？
てか、生身で空飛んでるよ。それにフェイト・Ｔ・ハラオウンってもろにリリカルだよォォォォ！
ｍｍｍまぁ落ち着け、手品かもしれない。それ以前にこれは夢だ！
そうに違いない！
ほら頬を抓ったって痛くｎ
「って思いっきり痛いよォォォォォォ！！」

ビクッ！！
「…ど、どうしたんですか？」
「あ、すいません。現実に少し絶望しただけですからハッハッハ…はぁ・・・」
「そ、そうですか」
とりあえず、場所の確認をしよう。まだ異世界、それ以前に日本から出てない可能性がたかいんだから。
「あの～、ここって日本の埼玉ですよね？」
ｙｅｓと答えろ、ｙｅｓと答えろ！
「日本！？９７管理外世界からきたんですか！？ッと、すみません。ここは第１管理世界ミッドチルダのクラナガン近郊です。あなたはおそらく次元震によって次元漂流者となってしまったのだと思います」
・・・・・ｏｈ・・・
「ナンテコッタイ」
国境どころか次元超えちゃったよ
「あの～、どうしてこうなったのか、なにか心当たりはありませんか？」
心当たりって言われても・・・・・・・・・・あっ

「赤いクリスタル拾って光ったと思ったらここにいた」

「赤いクリスタル？見せていただいても？」

あぁ～っとあった

「はいよ」

「！？これってレリック！！」

へ？

これが？

「このなんか安っぽい感じのこれが？」

「安っぽいって・・・すいませんが隊舎までご同行願えますか？」

ナントイウ

しかし行くあての無いオレには選択肢は一つしかなかった

「・・・・はい。」

フェイトＳＩＤＥ

レリックを拾ったというこの人は、これがレリックだと知らなかっ

たみたい

事情聴取のために六課に来てもらえるようだけど・・・
そういえばまだ名前を聞いてなかった
「あの、お名前を教えてもらえますか？」

「あぁ、まだ名前言ってなかったか
オレは」

≪マスター、１０時方向からガジェットが来ます≫
ッ！

仕方ない
「すみません、しばらくここで待ってて下さい！」
バッ！

主人公ＳＩＤＥ

魔法戦って生で見ると迫力違うな～
まさに閃光？って感じ

バチュンッ！

っておい！
流れ弾が、流れ弾がきたよォォォ！バチュンッ！
うお！
バラバラバラバラ！
ヤバい！カードが！！

1・・・6・・・・・23・・・・・39
コレがラストだな

「危ない！！」

へ？
ヤバい！
バチュンッ！バチュンッ！

うわァァッ！
ギュッ！！

ギャリン！！
ドカンッ！ドカンッ！ドカンッ！！

野生　の　小たぬき　が　現れた　！！

フェイトＳＩＤＥ

カバンから落ちたカードを集めている彼にガジェットが狙いをつけて撃ち始めた

「危ない！！」

バチュンッ！バチュンッ！

一瞬間に合わないと思ってしまったが、次の瞬間にはわたしはとても驚くことになった

ギャリン！！

ドカンッ！ドカンッ！ドカンッ！！

彼は魔法で攻撃を弾いたのだ

しかもその弾かれた攻撃は拡散・追尾しガジェットを全て破壊したのだ

「・・凄い・・・はっ！
だ、大丈夫ですか！？」

「あぁ、なんとか大丈夫。あんたは？」

「えっ、あぁ大丈夫です
それよりもさっきのはなんなんですか！！」

「なにって言われてもな～
オレにもよく分からないんだな～これが
つーかガジェットは？」

え？
本人も知らないの？
しかもガジェットを破壊したことに気づいてない

「ガジェットはあなたが全て破壊しましたよ」

「防いだだけじゃなくて？」

防御したのは覚えるみたい
「はい

あなたが弾いた攻撃が拡散してガジェットを破壊したんです」

「・・・・・・・oh・・・・」

はやてSIDE

フェイトちゃんが念話でガジェットと戦闘したっちゅうからどないしたか心配しとったけど、なんや保護した男性が不思議なバリアで全滅させてもうたらしい

フェイトちゃんによると

『少し魔力の流れを感じた瞬間にバリアができてて、ガジェットの

攻撃を弾いたんだ
しかも跳ね返った攻撃はガジェットを追尾して全滅させちゃったんだ』

やもんな～

にわかには信じられへんけど本当なら是非とも協力してもらいたいもんや

「はやてちゃん、例の男性が到着したですよ」

「ありがとぉなリイン
今行くわ」

さて、あちらさんも到着したようやし行きますか！

主人公ＳＩＤＥ

「ほな、まずは名前と住所からたのむわ」

「名前は―大塚晃≪おおつかあきら≫、住所は埼玉県さいたま市の日本人だ」

あんたらがアニメな世界からなんて言うわけにもいかないしなぁ

さて、今オレがどこで何をしてるかというと

「じゃあ、次はどうして転移してしもうたのか話してもらおか」

機動六課の隊舎で取り調べを受けているのだ

「赤いクリスタル、レリックだっけ？それを拾ったら突然光かりだして気づいたら森の中
後は知っての通りさ」

正面には部隊長の八神はやて、そのとなりにフェイトがいる

「ほな、最後にあのバリアのことについて話してもらおか」

あれはオレも分からないんだけどなぁ

そういえば、デバイスに録画機能ってあった気がする

「なぁ、あの時の映像ってある？あったら見てみたいんだけど何か解るかもしれないしさ」

「いいよ
バルディッシュ」

≪ｙｅｓ　ｓｉｒ≫

よし、コレでなんか解るかも

［バチュンッ！バチュンッ！

ギャリン！！

ドカンッ！ドカンッ！ドカンッ！］

・・・・・・・・コレなんてミラフォ・・・・・
最後に回収したのも確かミラフォじゃなかったっけ？

ま・さ・か

「破壊されたガジェットって全部攻撃してきてた？」

「むしろ、攻撃してきてないのは居なかったよ」
決まりだ！
コレは

「コイツは、聖なるバリアーミラーフォースー！」

「ミラーフォース？いったい何やのそれ？」

「ッあぁ、非常に、非常ーーに意味不明ではあるが恐らくはカード

の効果が具現化したとしか思えない」
でも何でだ？マンガ的にカードの精霊？でもコイツは罠カードだし
でも起きたことはコイツの効果テキストと極めて近いしなぁ

「そのカード詳しく見せてくれへん？」

ペラッ

「はいよ」

「うーん、魔力が流れた言うから魔力を込めると発動すると思ったんやけどなぁ」

「はやて、ここに相手の攻撃宣言時に発動って書いてあるよ
たぶんコレが発動条件なんじゃないかな？」

フェイト、なんて鋭い子！！
いや、普通にテキスト読んでれば気づくだろうけどさぁ

「じゃあ、ほかのカードも見せてくれへん？それと、できれば解析したいから今日1日貸して欲しいんよ」

ぐっ
コイツらを一時とはいえ手放すのは気が引けるが
しかしあの現象の理由も知りたいし・・・

やむなし

「はぁ～、わかった。ただ絶対になくさないでくれよ八神さん」

「はやてでええよ」

「あぁ、はやてさん」

「はやてでええよ」

「・・・・・」

コヤツ、無限ループするで！

「・・・はやて」

「うむ！」

「ハラオu・・・」

「フェイトだよ」

「フェイトs・・・」

「フェイトだよ」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・oh・・・・・・・・・・・・・・・・・・

性能差が全てじゃないって言うけどだいたいは性能差で決まると思う

晃ＳＩＤＥ

あの後魔力量を調べてもらったオレは、解析を行うシャーリーに挨拶したのちリインに案内された寮の空き部屋で何をするでもなく、ゴロゴロ過ごしたんだ

ちなみに魔力量はＢだった

そして３Ｄシャマルさんはなかなか綺麗だった（これで料理が壊滅的に下手じゃなければなぁ）

そんなこんなで昨日は終わり、今朝ようやく（と言っても一晩だけだったが）解析のため預けていたカード達が帰って来たんだ

オレ的には今晩まではかかるかとも思ったんだが、ジェバンｎ・・・もといシャーリーが一晩でやってくれた

「いや～実に興味深いものでしたよ！発動条件さえ揃えれば後は魔力を入れるだけ

それで誰でも強力な魔法が使えるようになるなんて！！

それでいて低燃費だから素晴らしいですよ！」

ほぅ～、まぁ発動条件やコストはテキスト通りだろうなオレは魔力

量がBだから低燃費なのはありがたい

しかし、しかしだ
誰でもってなんだよ誰でもって
「オレ専用とかじゃなく？」

「はい！魔力を持っていれば誰にでも使えますよ」

・・・ｏｒｚ

オレ専用だったらって

かなり、かな～り期待してたのに

「なんで専用じゃないだぁぁぁ！！」

お前らオレのカードだろう！？なにその裏切り！

「せやかてそれにもメリットあるかもしれへんで？」

「そ、そうだよ！だから
まぁ、その、元気だして！」

んな慰めいらんわ！

「でも事実的には専用みたいなものですよ？ここに居る人以外使い方知らないんですから」

・・・・・・・・・・へ？

どゆこと？

「そのままの意味ですね

知らないから使えない。一番シンプルな理由です」

「でも、ここに居る人は知ってるんだから使えるんじゃ・・」

「隊長さん方はそれを使うまでもなく強いですから」

分かってはいたけど、直に言われると辛いわ～

「あとですね～

そうなった原因ですが、恐らくレリックが原因だろうとは思うんですが詳しいことは不明です」

やっぱりかぁ

あ゛ァ～

まぁとりあえずは使い方をマスターしないとな

「そや、言い忘れとったんやけどな
晃君の世界な見つかれへんのや
埼玉県のさいたま市まではあったんやけど、晃君が言っとった地区がないんや
んで、考えられるんは平行世界、パラレルワールドや
せやけどパラレルワールドばっかりは管理局もどうしようもないねん」

でしょうね
まぁ行くあてないし協力者登録してここに置いてもらうか

「ごめんな
捜索は続けるけとあんまり期待せんといてな

でや、その間・・・・」

来た！
「協力するからしばらくここに置いてくんないか？」

はやてＳＩＤＥ

「せやけどパラレルワールドばっかりは管理局もどうしようもないねん」

なんか予想ついとる？

「ごめんな
捜索は続けるけとあんまり期待せんといてな
でや、その間・・・・」

「協力するからしばらくここに置いてくんないか？」

！！
うちが言いたいことがわかっとる！？

「えっえぇけど、理由を聞いても」

「いや～、せっかく力を持ってるんだから有効活用したあじゃん？
それに・・・・行く宛てもないし」

まぁ、戦力増えるんやから良しとしよか

「わかった
じゃぁこっちで民間協力者登録しとくわ」

「そうだ、訓練室貸してくんね
どんな感じなのか試してみたいんだ」

感覚を慣らさしとくんもええかな

「えぇよ。じゃあ相手はフェ・i」

「その相手は私がしよう」

シグナムＳＩＤＥ

例の次元漂流者がなにやら模擬戦をするようだ

実力はあまり期待できないがまたとない機会だ

ここは行くしかないだろう

「その相手は私がしよう」

「いやいやシグナムさんはレベルが高すぎでしょう！」

逃がさん！

「大丈夫だ、手加減するから問題ない」

「わかった、じゃあシグナム頼むわ」

よし！

「・・・ナンテコッタイ」

晃ＳＩＤＥ

ドガァァァァン！！！

「行け、ダークソード！！ホーリーエルフは守備表示！」

「甘い！」

ドシュッ！ブシャッ！

クソッ！
☆４じゃ全く相手にならねー！
「光の護封剣！！」

「くっ！小癪な！」
ガツンッガツンッ！！

さて現在進行形でシグナムに襲われている晃デス

正直言ってシグナム強すぎだろ！！
なにコイツ、ほんとにリミッター付いてんの！？

バキィ！

ヤベッ！護封剣が突破された！
召喚じゃ間に合わない！

「収縮発動！シグナムの攻撃力を半減させる！
さらに稲妻の剣を発動！オレが装備する！」

「なめるなァァァァ！！」
ガキンッガキンッ！
くぅぅ！
半減させてコレとかマジないわ！
≪ロード・カートリッジ≫
ヤベェ！
「紫電一閃！」
ぬぁぁぁぁぁあァァァ！！
ドガァァァァァン！！！

シグナムＳＩＤＥ

「紫電一閃！」

ぬぁぁぁぁあァァァ！！

ドガァァァァァン！！！

思いのほか晃が粘るものだから思わず紫電一閃を使ってしった
あの後医務室に晃を運んだ後に主やテスタロッサ達からもっと加減するように言われてしまった
反省しよう、しかし後悔はしていない

シャマルＳＩＤＥ

気絶した晃くんが運ばれてきたから何かと思ったら、シグナムと模擬戦をしたみたい
まったく、もう少し加減してあげても良いじゃない
あとではやてちゃんにキツく言ってもらわなきゃ

それにしても起きないわね
そうだわ！お粥でも作っておいてあげましょう！

晃ＳＩＤＥ

「知らない天j・・医務室か」

「あら、おきたのね」

どうやらふっ飛ばされた後、気絶したらしい
オレは医務室に居た
ずいぶん寝ていたらしい日が傾き出している

するとシャマルさんが天使の微笑みを浮かべてやってきた

しかし、その手には

「・・・・・・Ｊｅｓｕｓ・・・・・」

悪魔の巣窟があった

「お腹空いたでしょう？お粥作っておいたのたくさん食べてね」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・oh・・・・・・・

・・・・その日、オレは二度めの気絶をした

性能差が全てじゃないって言うけどだいたいは性能差で決まると思う（後書き）

初の戦闘シーン

・・・なんか微妙だったな

ガジェットって聞いて三色ガジェを思い浮かべたことの有るヤツは挙手

晃ＳＩＤＥ

昨日はヒドい目にあったぜ

シグナムさんは予想通りの暴走っぶりを発揮し、トドメにシャマルさんのパンデモニウム

思い出しただけでも震えが止まらねぇ

まぁ今日からフォワードの訓練に参加するわけだし気張っていきますか

なのはＳＩＤＥ

今日からこの間保護した大塚晃っていう人が、新しく民間協力者として訓練に参加するみたい

なんでも例の不思議なカードを使って戦うみたいだけど、魔法はまだバリアジャケットもできないみたい

午前中はフォワードのみんなとは別メニューかな

基礎から教えるのは初めてだから、楽しみなの

晃ＳＩＤＥ

「ティアナ・ランスター二等陸士です！」

「スバル・ナカジマ二等陸士です！」

「エリオ・モンディアル三等陸士です！」

「キャロ・ル・ルシエ三等陸士です！」

「「「「よろしくお願いします！！！！」」」」

いや～、みんな元気だねぇ

知ってたけど

「民間協力者として参加する、大塚晃だ。まぁ気軽に晃とでも呼んでくれ」

「晃くんは一般の魔法は初心者だけど、召喚魔法はなかなか上手だからキャロと話が合うかもね」

「ちょっなのは！」

コイツなんで知ってんの！？

「わたしもそのカードの実験に参加したんだよ」

・・・・・・・・ｏｈ・・・・・

「今朝の訓練だけど、みんなはいつもの基礎の反復、晃くんは私と魔法の練習だよ」

へ？

もしかして、魔王ｓ・・・ナノハサンとのマンツーマンですか

「私が１対１でしっかり教えてあげるからね」

・・・・Ｊｅｓｕｓ！

ティアナＳＩＤＥ

今日から民間協力者の人が新しく来た

魔法はまだ基礎の段階らしいけど、強力な召喚士みたい

ほんと、凡人なのはアタシだけか・・・

キャロＳＩＤＥ

今日新しく来た人はなんとわたしと同じ召喚士のようです！

同じ召喚士としていろいろ相談できたら良いなぁ

晃ＳＩＤＥ

地獄の午前から生還し昼食を済ませたオレ達は、午後の訓練のために立体シュミュレータの前に集合して、各々準備運動をしていた

それにしても昼はかなり賑やかだったな

――

――――――

―――――――

「午後からは晃さんも一緒なんですよね？楽しみです！」

エリオ、お前とはなんか上手くやって行けそうだ

「どんなモノを使役してるんですか！？ポジションはやっぱりフルバックですか！？」

キャロよ、とりあえず落ち着け

「けっこう小食なんですね～」

コイツ、話の流れを全く読んでねぇ！？スバル、恐ろしい子！
そしてお前から見たら誰だって小食だ

「あんたが大食いなだけでしょ！！
てか話の流れを読みなさいよ、バカスバル！！」

ティアナ、お前のツッコミには光るモノを感じるぞ！

―――――――

――――――
――

こんな感じだ
特にスバルがにぎやかだったな

「午後はガジェットを使って、撃墜訓練をするよ」

おっと、どうやら始まるようだ。
集中集中っと

しかし、ガジェットって言うと三色ガジェが思い浮かぶな

全然別物なんだけど

スバルＳＩＤＥ

「今回は逃げるまわるガジェットを制限時間内に全機撃墜したら、
ミッションクリアだよ。
それじゃあ、スタート！」

キュィィン！

「ハッテイッ！」
スカッ

私たちは今、なのはさんの合図で一斉に逃げ出したガジェットを追いかけているんだけど、意外と動きが細かくて上手く撃墜できていない

しかも動きが細かいだけでなく厄介な機能も付いていた

「ティア！！」

「クロスファイア、シュート！」
バシュゥン！！！！ガキッッシュゥゥゥゥゥン

「ウソ！？」

「ガジェットにはＡＭＦって言う魔法を阻害する機能があるから、上手く工夫しないと当たらないよ？それに・・・」

シュィィィィン

パッ！
フラッ

「え？キャャァ！」

「ＡＭＦを強くされると魔法の維持も大変だよ？」

これが有るから魔法は通らないし、すばしっこいから直接攻撃もなかなか当たらないんだ
どうにかしないと制限時間に間に合わないよ！！

『スバル！エリオと晃さんと協力して、残りのガジェットを中央の開けた所まで誘導してきて！そこで仕留めるわ！！』

『わかった！！』

ティアが何か作戦が思いついたみたい！

「エリオ！晃さん！ガジェットを中央まで誘導して！
ティアが何か作戦が有るみたい！」

「はい！！」

「ＯＫ！隼の騎士！ガジェットを追い込め！！」

さぁて、いきますか！！

エリオＳＩＤＥ

ハァァァァ！！

スカッ！

！？

思っていた以上に素早い！

なら！

「サンダーレイジ！」

バチチチチッシュゥゥン

魔法が消える！？

「ガジェットにはＡＭＦって言う魔法を阻害する機能があるから、

上手く工夫しないと当たらないよ？」

そんな！

「素早い相手なら、隼の騎士召喚！行け！！」
サッサシュッ！サッサシュッ！

「クソッ攻撃力が足りてねぇ！」

晃さんの召喚獣がダメージを与えるけど撃墜は出来ていないみたいです
ただ、それによって動きが鈍くなってる！

これなら！！

「ハッヤァ！！」
ドカンッドカンッ！！！

やった！

でもまだけっこう残ってる

「エリオ！晃さん！ガジェットを中央まで誘導して！
ティアが何か作戦が有るみたい！」

ティアナさんが何か思いついたみたい！

「はい！」

「ＯＫ！隼の騎士！ガジェットを追い込め！！」

晃さんも指示を出したみたいです

この作戦で一気に決める！！

ティアナＳＩＤＥ

「ティア！！」

「キャロ、ブーストお願い！」

「はい！

ブーストアップ・バレットパワー！！」

来た！

「クロスファイア、シュート！」

バシュウン！！！！ガキッッシュウウウウウン

！？

「ガジェットにはＡＭＦって言う魔法を阻害する機能があるから、上手く工夫しないと当たらないよ？」

そんな！

でも！

「こっちは射撃型、無効にされてはいそうですか、なんて言えないのよ！！」

キュィィィィ！

固まれ！固まれ　！固まれ！！

ィィィィン！！

「ヴァリアブル・シュート！！！！」

ズバンッ！！

ドガァン！

「ハァ、ハァ」

なんとか一体倒したけど、これじゃあらちがあかない

「キャロ、フリードで広範囲攻撃できる？」

「・・・・はい！出来ます！」

よし！これなら！

『スバル！エリオと晃さんと協力して、残りのガジェットを中央の開けた所まで誘導してきて！そこで仕留めるわ！！』

『わかった！！』

「キャロ、スバル達が中央にガジェットを誘導して来るわ
そこをフリードで殲滅して。
出きるわね？」

「はい！」

よし！いきますか！

キャロＳＩＤＥ

「キャロ、フリードで広範囲攻撃できる？」

フリードならそれも出来ます。でも、少し不安で考えてしまいました

ティアナさんは真っ直ぐにわたしの目を見ています

そのうちに不思議と不安は無くなっていました

「・・・はい！出来ます！」

そう答えると直ぐにティアナさんは誰かに念話をしました

「キャロ、スバル達が中央にガジェットを誘導して来るわ

そこをフリードで殲滅して。

出きるわね？」

もう不安は在りませんでした

「はい！」

「逃がすな、回り込め！隼の騎士！」

「リボルバー・シュート！」

「サンダーレイジ！」

来ました！！

でもガジェットが動き回って狙いが定められません

その時、

「光の護封剣発動！！」

その声と同時に光る剣のようなモノがガジェットを囲んでしまいました

これなら！

「フリード！ブラストフレア！！」

「キュクルー！」

シュゥゥ

ボァァァァ！！

ドガァドガァドガァン！！！

晃ＳＩＤＥ

ガジェットがちょこまか動くから、フリードが攻撃できねぇ。
それなら！

「光の護封剣発動！！」

止まった！

「フリード！ブラストフレア！！」

「キュクルー！」

シュゥゥ
ボァァァァ！！

ドガァドガァドガァン！！！

全滅してるな、終了！

なのはＳＩＤＥ

うん

ちょっと油断してたけど、みんないい感じに動いてる

晃さんもなかなかやるみたい

「光の護封剣発動！！」

「フリード！ブラストフレア！！」

シュゥゥ

ボァァァァ！！

ドガァドガァドガァン！！！

あっ、終わったみたいだね

反省会してすこし休んだら、シュートイベーションして今日は終わりにしよう

それにしても晃さんのカード、ほんと不思議だな〜

ガジェットって聞いて三色ガジェを思い浮かべたことの有るヤツは挙手（後書き

上手く書き分けられない

反応薄かったりスルーされると結構つらい

晃ＳＩＤＥ

「じゃあラスト、シュートイベーションいってみようか？」

「むｒ・・」

「「「「はい！」」」」

・・・・・・・・ｏｈ・・・・

悪夢のシュートイベーション発言によって俺のガラスハートにひびを入れた魔王様は、
それだけでは飽き足らず更なる追加攻撃をしてきやがった

「晃くんは召喚魔法禁止ね」

・・・・へ？

「具体的には、モンスターカードだっけ？それを使うの禁止ね」

そいつはねーよ

「厳しいッス」

「大丈夫、みんなと協力すれば何とかなるから」

そう言う問題じゃねーよ

「それじゃあ、１０分後に始めるね」

「アンタたち、今の疲れた状態でなのはさんの攻撃、５分間捌ける？」

「「「ムリ（（です））！！！」」」

「それ、なんてムリゲー？」
さて、現在なのは（魔王）を倒すべくフォワード（勇者）のみんなと作戦会議中なんだが、かな～り厳しい状況だ。特にオレが。
フォワードのみんなはまだなんとか動けるようだが、オレがアウトだ
キャロでさえも動けるのに、だ

自分で言っててなんか悲しくなってきた

しかし、召喚禁止は痛い
攻撃手段を９割無くしたようなもんだ

「とりあえず、スバルがガードを崩してエリオがその空きに突撃。
アタシは射撃と幻術で援護するわ。
キャロと晃さんは補助魔法でサポートを。」

さすがはフォワードの賢者だ
すぐに作戦を組んでくれた

『みんなそろそろ始めるよ』

「それじゃ、行くわよ！」

「おう！！」

「「はい！！」」

「・・・ｙｅｓ　ｒｉｒ」

まぁ、とにかく生き残れるよう頑張りますか！

なのはＳＩＤＥ

「はぁァァ！」

先ずはスバルか

≪アクセル・シューター≫

「シュート！」

シュカッ

！

幻術！

「セイッ！」

≪プロテクション≫

「威力は良いけど、タイミングがまだまだだよ？」

「でも、これで良いんです！」

「ブーストアップ・アクセラレーション！

エリオくん、気を付けて！」

「大丈夫、任せて！！」

キィィィン！！

ズゴァァァァァ！！！！！

スバルは囮で本命はエリオか
でも、
「それも甘いよ！」

「ソイツはどうかな？
勝機は今オレの手に！！」
え？
≪プロテｃ「マジック・ジャマー発動！！」・・・ｅｒｒｏｒ≫

「キャ！」
ズガァン！！
≪ミッションコンプリート≫

晃ＳＩＤＥ

≪ミッションコンプリート≫

ふぅ～
ようやく終わった～

アレが決まらなかったら、ギリギリだったなぁ

――

――――

――――――

「エリオ、オレらで援護するから、気にせづ突っ込んでこい！」

「はい！」

「ブーストアップ・アクセラレーション！

エリオくん、気を付けて！」

「大丈夫、任せて！！」

キィィィン！！

ズゴァァァァァ！！！！

「まだまだだよ！」

「ソイツはどうかな？

勝機は今オレの手に！！」

≪プロテｃ「トラップ発動！！マジック・ジャマー！！」・・・ｅｒｒｏｒ≫

「キャ！」

ズガァン！！

≪ミッションコンプリート≫

――――――――

――――――

――

うん、そいつはどうかなって一度言ってみたかったんだよね

そこ、中二乙とか言わないで！！

しかし、マジック・ジャマー通用して良かったわ～

てか、魔法の発動無効ってこの世界じゃ鬼畜な強さじゃね？

「それじゃあ集合！」

めんどいわ～

「今日のシュートイベーションはまだ甘いところが有るけど見事クリア、お疲れさま

ところで晃くん、最後にプロテクションにジャミングかけて無効化したのって
なんなのかな？」

「あ、それは僕も気になってました」

「たしかに気になるわね」

まぁ、気になるだろうなぁ
「オレがカードを使って召喚したり、魔法を使ってるのは知ってるな？」

「え？そうなんですか？」

スバルよ、もっと周りを視ような

「さっきからずっと使ってたでしょ！
馬鹿スバル！」

「・・・使ってたんだが、あれもそのカードの力だ」

「へぇ〜、凄いんですね」

そして思ったよりも反応が薄い件について

「もう少し、リアクション欲しいなぁ〜」

「あれは今度から、訓練中は使っちゃだめだよ」

スルーですか、そしてまたしても禁止指定とか

「それにわたし達が相手にするガジェットは、魔法を使わないんだよ？」

そうでした

「じゃ、今日はここまで。
お疲れさま」

「「「「「ありがとうございました」」」」」

「ありゃりゃした〜」

そういえばさっきのガジェットの話で気ずいたけど、ナンバーズって魔法使わなかったきが・・・

・・・・Ｊｅｓｕｓ・・・

なのはさんの前世はきっとスパルタ人（前書き）

今回はほとんど晃ＳＩＤＥ

なのはさんの前世はきっとスパルタ人

晃ＳＩＤＥ

アレから一週間色々あった

訓練して、ミッド語学んで、なのはさんに苛められて、また訓練して、ミッド語学んで、なのはさんに苛められて、訓練して、・・・・・

同じことしかしてないというｗ

まぁ、オレ以外は平和な一週間だった

駄菓子貸し・・・もといだがしかし、そのつかの間の平和にもさっきのアラートでサヨナラを告げざるを得なくなった

所謂、出動と言うやつだ

原因はもちろんレリック

そして、それを狙うガジェットの群れだ

オレ達は隊長達が制空権を確保した後に、暴走列車に降下
レリックの確保と列車の停車を同時に行うんだ

ちなみにだが、オレはライトニングに配属された。
何でも、チビッ子達の子守りをしてほしいらしい

配属の説明ついでに、オレのバリアジャケットのデザインと、地獄のマンツーマンで覚えた魔法も紹介しよう

現場に着くまではまだ時間が在るしな
先ずはバリアジャケットのデザインだ。
これはフェイトのバリアジャケットを、スカートを長ズボンに、手甲を手袋に変えたモノだ。
他は、マントが自重してないくらいか。

次に魔法だが、魔王の試練で以下の魔法を習得した

先ずは、さっき説明したバリアジャケット。フェイトのに似たのは、最初にあった時のイメージからだと思われる。自重しないマントについては、コメントは控えさせてもらう。

次はシュートバレットだ。これは試練の結果４発まで同時に撃てるようになった。

最後にプロテクションだ。
これが一番怖ｋ・・・苦労した。なにせ、なのはさんの砲撃を唯ひたすらに受け止めると言うスパルタぶりだった。おかげで強度だけは、それなりに硬くなった。

なんか、涙が止まらないや・・・

ちなみに飛行魔法だが、空戦が出来るほどは使えず、あくまで降下の補助位にしか使えない

まぁ、こんなとこだ。

さぁて、現場に着いたみたいだし、集中していきますか！

隊長達が制空権を取り、スターズが降下して、いよいよオレ達の出番という時になって少々問題が起きた

アレだ、キャロがビビって立ち止まっちまったんだ

確かこの時はエリオがなんとかするはずハズなんだが、そのエリオはどうしたもんかとあたふたしてる

ちょいと後押ししてやるかw

「Ｈｅｙ！エリオ、キャロ！オレがアドバイスくれてやる

ちょいとこっち来な」

「アドバイス、ですか」

「そう、アドバイスだ！
んじゃ、先ずはエリオ、キャロと手を繋いでハッチの縁に並べ」

「は、はぁ？
キャロ」

「うん・・・」

ギュッ

よしよし
「次に2人共目を閉じて、深呼吸だ」

スゥゥハァァ、スゥゥハァァ

「OK、最後だ

エリオ、キャロをエスコートして・・・・・・・・・・・・・・鳥に成ってこいw」

「「・・・え？」」

ドンッ！！

ワァァァァ！！

キャァァァ！！

「「セ、セットアップ！！」」

ピカッ！ピカッ！

スタッ！

どうやら無事に着いたようだなw

『『なんて事してくれたんですか！！！』』

『気にすんなよ、ただ文字通り後押ししただけだろぅ？』

何か騒いでるが、まぁいいや

そんじゃあ、オレも行きますか

「ラグナロク、セットアップ！」

ピカッ！

っと、できたな

ちなみに、ラグナロクはシャーリーがオレに作ってくれたデバイスだ。見た目はデュエルディスクそのもので、待機形態はＵＳＢメモリ型だ

デュエルディスク型だから、召喚したモンスターカードを持ちっぱなし、と云うことが無くなって助かってる

「ライトニング５いくぜ！」

さて、

「エリオ、キャロ行くぞ！」

「切り込み隊長召喚！さらに効果でコマンド・ナイト特殊召喚！カードを一枚伏せ、バトル！ガジェットを殲滅しろ！！」

ザシュッ！ギシャッ！バシュッ！

ドカン！ドカン！ドカン！

一型は攻撃力１６００あれば問題ないか

ザシュッ！ザクッ！
ドカン！ドカン！
エリオ達も順調だな

バチュン！
ガキンッ！
守備力も１９００でなんとかなるみたいだ
「よし、次の車両に行くぞ！」
ズガァァン！！

・・・おいおい、三型さん、出てくるのちょいと早すぎないか？
「新型！？」
「フリード、ブラストフレア！」
キュァァァ！
ボワァ！ボワァ！
バシッ！バシン！
弾くとかないわ～

「ウオォォ！！」

そしてヤッパリエリオは突撃するのね

「切り込み隊長、コマンド・ナイト、エリオを援護しろ！」

ガキンッ！ガキンッ！ガキンッ！

チッ！！堅い！

ダメージが全く通ってないところを視ると守備力２０００以上は有るな

それに

「ＡＭＦ！？クッ！」

エリオも魔法が無効化されて、苦戦してる

こんなに強いなんて、予想外デス

ズシャン！

って、コマンド・ナイトが！！

攻撃力もだいぶ有るみたいだなぁ、おい！！

ググッ、ポイッ！！

「エリオ！」

「エリオくん！！」

タタタッバッ！！

投身自殺ですかぁぁ！！？？

あ、竜魂召喚か

「竜魂召喚！！」

ギュァァ！！

「召喚成功か！」

「フリード、ブラストレイ！！」

キュィィィン！

ゴワァァァァ！！！

「アレは砲撃じゃキツいよ

僕がやる！キャロ！」

「うん！ツインブースト、スラッシュ・ストライク！！」

「ついでだ、リバースカード・オープン！突進発動！
エリオの攻撃力をアップさせる！！」

「ハアァァ！！」

ザシュッ！ドスッ！ズシャッ！

ドガァァン！！

やったか！？

「やりました！！」

って、フリードでけぇ！！

『こちらスターズF、レリックを確保しました』

『列車のコントロールも回復したです！』

ようやく終わったか～
つ～か～れ～た～

「やっと帰れる～！！」

『スターズはレリックを護送してきて、ライトニングは武装隊に引き継ぎをしてもらうから、しばらく待機ね』

・・・・・・・・・oh・・・

???SIDE

「レリック、護送体制に入りました

追撃なくてよろしいのですか？」

「あぁ、構わない。彼女達のデータが取れただけでも十分だからね」

彼女達は実に興味深い

竜召喚師になにより、生きて動いているプロジェクトFの残照

そしてカードを使役している彼・・・

是非とも研究したいものだ

なのはさんの前世はきっとスパルタ人（後書き）

今更ですが、ライフの定義を

８０００ライフ＝総魔力量（Ｂランク現在）

０ライフ＝魔力残量０

戦闘ダメージ＝魔力ダメージ（非殺傷解除で身体ダメージ付与）

ちなみに、カードを使用するのにはテキストに書かれているコストの他に、１０ライフ相当の魔力を支払っています

スパルタ人はなのはだけじゃなかったという罠（前書き）

短っ！

スパルタ人はなのはだけじゃなかったという罠

晃ＳＩＤＥ

「エリオやキャロ、晃はスバルやヴィータみたいに頑丈じゃないから、なるべく相手の攻撃に当たらないように動き回らないといけないんだ」

フェイトさん、そいつは厳しいッス

「こんなふうに」

チュンッチュンッ！

タッタッタッタッタッ

「相手に狙いを付けさせない」

「狙われる場所に、」

チュンッ！

スタッスタッ

「長いしない！」

「ね？」

なんというニート殺し

「これを低速で確実に出来るようになったらスピードを上げる」

チュンッチュンッ！

スタッスタッ！

タタタタタッ！

チュンチュンチュンチュンチュンッ！

≪ブリッツ・アクション≫

ズガァァン！

「こんなふうにね？」

「・・・ｏｈ・・」

近くで見るとまじヤベェ

「「す、凄い！」」

「今のも基礎の動きを早回ししただけなんだよ？
スピードを上げるとそれだけ勘やセンスに頼るのは危険なの

ガードウイングのエリオはどの位置からでも攻撃や防御ができるように、キャロと晃は素早く動いて仲間の援護ができるように、確実で正確な回避アクションの基礎をしっかりやっていこ？」

「「はい！！」」

「キュクル～」「あ、ありがとうございます・・・」

体力の乏しいオレには酷な要求だなぁ

「体力作りもしっかりやるとから、心配しなくても大丈夫だよ、晃」

ナンテコッタイ
「うへぇ～」

なのはＳＩＤＥ

そろそろ時間かな

ピピィィ！

「はい、そこまで！」

「「「「ハァ、ハァ・・・」」」」

「・・・・・・・」

みんな結構きてるね

晃くんは・・・・頑張った方かな

「みんなお疲れさま

個別スキルに入ると結構キツいでしょ？」

「・・・結構と言いますか」

「・・・その、かなり」

まぁ、潰れないギリギリを見極めてやってるからね

「フェイトは仕事でなかなか訓練に付き合えねぇけど、あたしはしばらくはこっちに居るから、みっちり扱いてやるからな」

「あ、ありがとうございます・・・」

お手柔らかにね？ヴィータちゃん

「ライトニングの２人は、スターズの２人もだけど、まだまだ身体が成長途中だから、無茶しないようにね？」

フェイトちゃんの言う通りだね

「ま、その点は晃は問題ないから、ビシバシいくからな」

ヴィータちゃん・・・

「・・・・Ｊｅｓｕｓ・・・」

まぁ、晃くんなら大丈夫だよね？

「じゃあ、午前の訓練はここまで」

「「「「「ありがとうございました！！！！」」」」」

「ありゃ～した～」

晃くん・・・・・

・・・こんどお話しなの

晃ＳＩＤＥ

はっ！？

なにやら危険な気配が！

「どうかしました？」

う～ん、気の所為か？

ホテルって聞いて変な妄想した今日この頃

晃ＳＩＤＥ

あ〝ぁ～眠みぃ〝～

今日の任務がホテルって聞いて妄想したあげく、それでテンション上がって眠れないとかないわ～

「・・・隊長達・・・部・・警・・・・・・フォワード・・・・・・備・・・・・・誤認・・・ガジェッ・・・・・・・」

「前線・・・・副・・・示・・・従っ・・・・・・」

なんか言ってるけど、まぁいいや
お休ｍ

「晃くん、お話しする？」

はっ！とりあえず、誤魔化さねば！

「ＨＡ・ＨＡ・ＨＡ！

いったいなんの事だい？」

「まったく、もう」

危うく覚める事のない眠りに着かされるとこだったぜ

「あの、シャマル先生
さっきから気になってたんですけど、その箱なんですか？」

んぁ？
あぁ、あれか

「これ？
これはね、隊長達のお仕事着！」

ティアナＳＩＤＥ

『そう言えば、今日は八神部隊長の守護騎士団、全員集合かぁ』

そう言えばそうね

『そうね
あんたは結構詳しいわよね？
八神部隊長や副隊長達の事』

『うん、お父さんやギン姉に聞いたくらいだけど

八神部隊長のデバイスが魔導書型で名前が夜天の書ってこと、シグナム副隊長、ヴィータ副隊長、シャマル先生にザフィーラが、八神部隊長個人が保有する特別戦力で、それにリイン曹長が加わって六人揃えば、無敵の戦力ってこと

まぁ、八神部隊長たちの出自や能力の詳細は特秘事項で、あたしも詳しくは知らないんだけどね』

『レアスキル持ちの人はみんなそうよね』

『何か気にるの？』

『別に』

『そう

じゃあ、また後で』

『ん』

六課の戦力は無敵を通り越して明らかに異常だ

八神部隊長がどんな裏技を使ったのか知らないけど、隊長格はオーバーS
副隊長もニアSランク
他の隊員達だって、前線から管制まで未来のエリートばかり
あの年でBランクのエリオに、レアで強力な竜召喚師のキャロは、フェイトさんの秘蔵っ子
危なっかしくも才能に溢れてるスバル
そして、様々な騎士を召喚し多彩な魔法を使う、晃さん
やっぱり、うちの部隊で凡人なのはあたしだけか・・・
だけど、そんなの関係ない
あたしは、立ち止まる訳にはいかないんだ！

晃ＳＩＤＥ

ッんぅ～
暇だ
向こうの方じゃシグナムとヴィータがドンパチ始めてるけど、こっちは至って平和だ

「あの、援護に行かなくて良いんでしょうか？」

マジメなヤツだなぁ、エリオは

「大丈夫、大丈夫
副隊長達なら問題ないさ
それに、ここは最終防衛ラインだろ？
そう簡単には離れらんねーよ」

「はい・・・」

もっともらしい事言ったけど、何にもセットしてないし、召喚シテ無かった
まぁ、準備くらいしとくか

「ブレイド・ナイトと闇魔界の戦士ダークソードを召喚！！」
そう言やぁ、ティアナが誤射するんだったか？
念のために

「さらに、リバースカードを一枚セット！！

とりあえずこんなもんか」

「相変わらず不思議ですよね、晃さんのレアスキル

カードを使役するなんて」

「まぁ、不思議なものだからレアスキルってんじゃね？」
こいつらには、オレのカード使役はレアスキルって事になってる

「は、はぁ
ハッ！！」

「キャロ？
どうしたの？」

「どうした？キャロ」

「誰かが、近くで召喚を使ってる！」

『クラールヴィントにも反応！
でも、この魔力反応って！』

『おっ大きい！』

「さらに遠隔召喚！
来ます！！」

「あれって召喚魔法陣！？」

「召喚ってこんなこともできるの！？」

おいおい、コイツはなんだぁ？

「Ｈｅｙ、キャロ！

どうなってんだ！？」

「優れた召喚師は転送魔法のエキスパートでもあるんです！」

なるほどね

「何でもいいわ

迎撃行くわよ！」

「「「おう！！！」」」

「Ｏｋａｙ，行くか！！」

ドンッドンッ！！
バシュンッバシュンッ！！
ガンッガンッガンッガンッ！！
「Ｈｅｙ！
これじゃあキリがないぜ！」

「そんなの分かってるわよ！！」
ピカッシュイン！

またか！
コイツ等どんだけ転送されて来るんだよ！
「コマンド・ナイト攻撃表示！
連携して撃破しろ！！」
ザシュッ！
ドガンッ！
ザシュッ！

ドガンッ！

Ｄａｍｎ　ｉｔ！

☆４じゃあ、キリがねぇ！

『今ヴィータ副隊長がそっちに向かっているわ
もう少し、持ちこたえて！』

「守ってばかりじゃ、行き詰まります！
こっちから撃って出ます！

エリオ達は下がって！

スバル！
クロスシフトＡ、行くわよ！！」

「ＯＫ！
ウイングロード！」

ガシュンガシュン！

おいおい、ありゃロードし過ぎじゃね？

「Ｈｅｙ、ティアナ！
無茶すんな！」

『そうよティアナ！
四発ロードなんて無茶よ！』

「大丈夫です！
行けます！！」
シュイィン

「クロス・ファイアァァ、シュート！！」

Ｄａｍｎ　ｉｔ！
やっぱとまらねぇか！

バンッバンッバンッバンッバンッ！！！

ドガンッドガンッドガンッドガンッ！！！
スッ

「ハッ！」

「うぉぉぉぉ！！
間に合えぇぇ！！」

ヴィータがギリギリ間に合わない！？

「クソが！
トラップ発動！！攻撃の無力化！
スバルへの攻撃を無効化する！」

シュウゥゥン

「これって、晃か

それより、このバカ！無茶やった上に、仲間を撃ってどうすんだ！！」

「ヴィータ副隊長！・・・あの、その、今のもコンビネーションで・・・」

「直撃コースだよ！このタコ！！
晃がなんとかしたからいいものの、当たってたらどうするんだ！！」

「今のは、あ、あたしのミスで・・・」

「Ｈｅｙ！
流石にアレは見逃せねーよ」

「もういい、後はアタシがやる
お前らまとめて、すっこんでろ！！」

って、俺まで巻き添えかよ！

「・・・あー、俺も？」

「んなワケねーだろーが！
ライトニングは、ここの警備だ！！」

・・・・・・・・・・・・・・oh・・・・・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8786w/

【練習】リリカルでStrikerSな世界へ

2011年10月13日14時51分発行